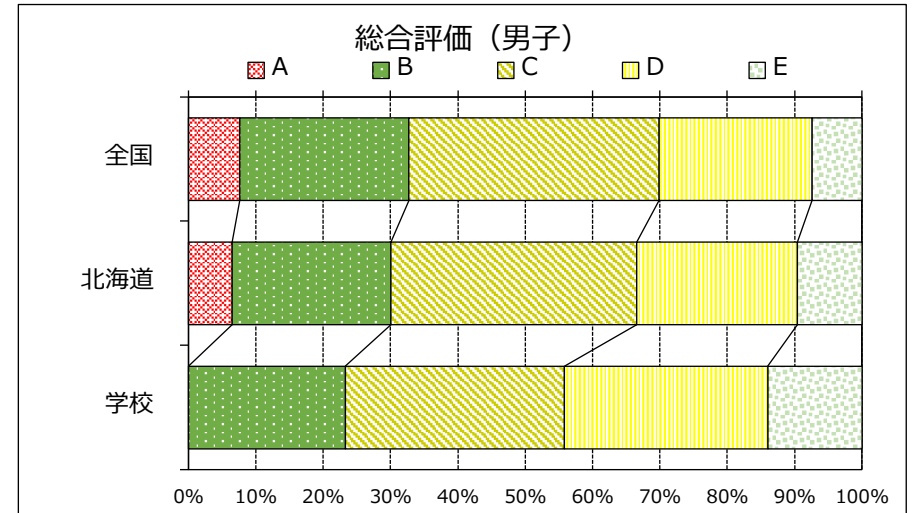
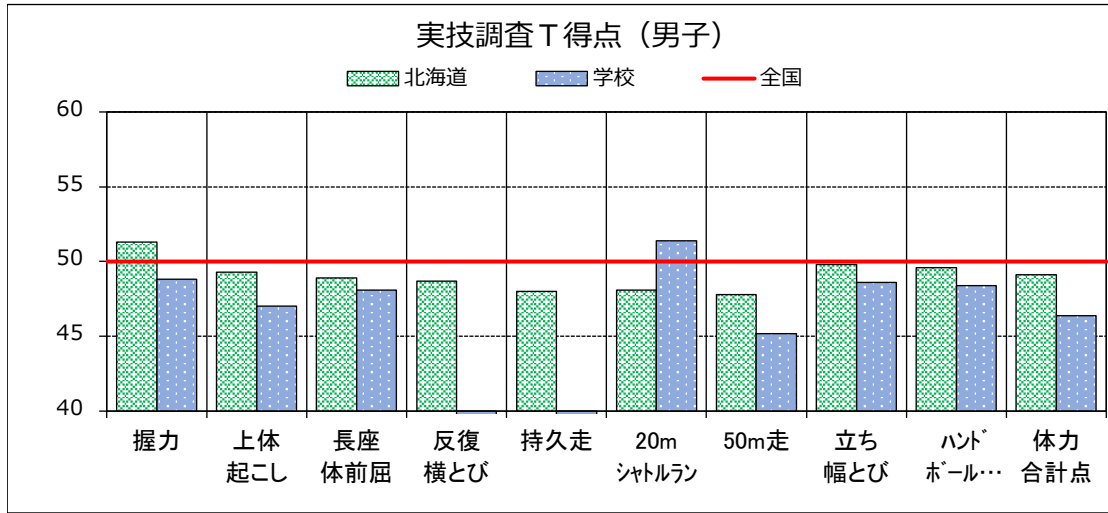


令和元年度 帯広市立帯広第二中学校 全国体力・運動習慣等調査結果に関わる考察



①男子結果

《北海道・全国の平均よりも高い値となった項目》

20mシャトルラン

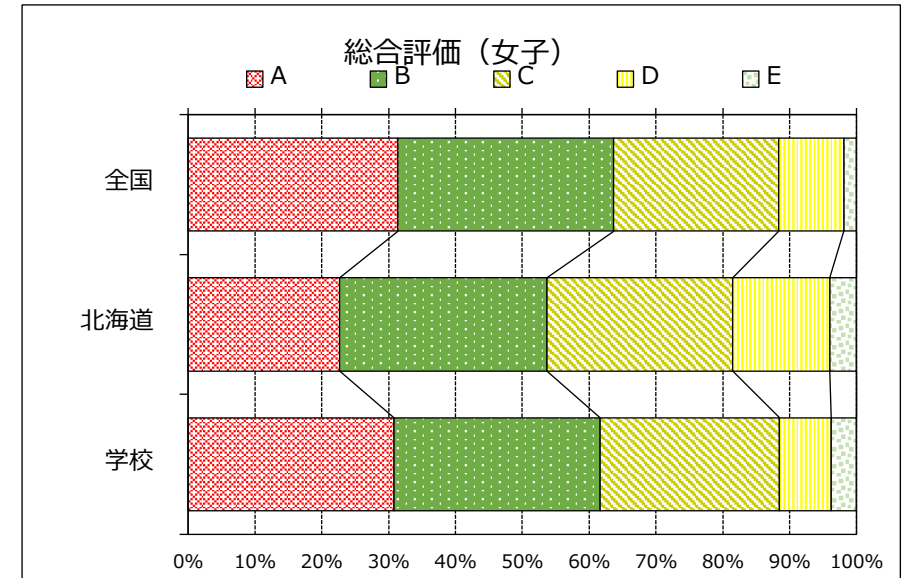
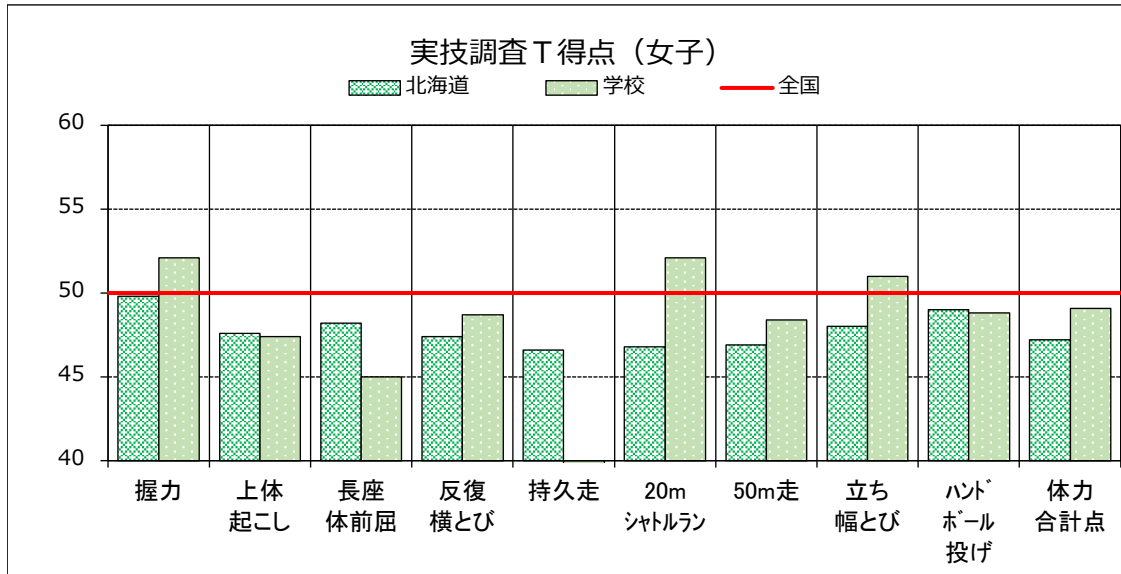
《北海道・全国の平均よりも低い値となった項目》

握力 上体起こし 立ち幅とび 長座体前屈 反復横とび 50m走 立ち幅跳び ハンドボール投げ

※体力合計点では全国平均を3.6点下回っており、北海道平均を0.9点上回っている。

②分析と課題

- ・20mシャトルラン以外の種目は全て全国平均、北海道平均を下回っている。特に反復横とびが全国平均、全道平均を大きく下回っており、敏しょう性への対策が必要である。また、50m走でも全国平均と5点近くの差があり、課題の残る結果となった。
- ・20mシャトルランについては昨年に続き高い数値を示しており、唯一全国と全道の数値を上回っている。この結果からも全身持久力が高いことがわかる。
- ・上体起こし、立ち幅とび、ハンドボール投げは全国平均と全道平均を下回っているが、近い数値を示している。



①女子結果

《北海道・全国の平均よりも高い値となった項目》

握力 立ち幅とび 20mシャトルラン

《北海道の平均よりは高いが、全国の平均よりも低い値となった項目》

反復横とび 50m走

《北海道・全国の平均よりも低い値となった項目》

上体起こし 長座体前屈 ハンドボール投げ

※体力合計点では全国平均を0.9点下回っており、北海道平均を1.9点上回っている。

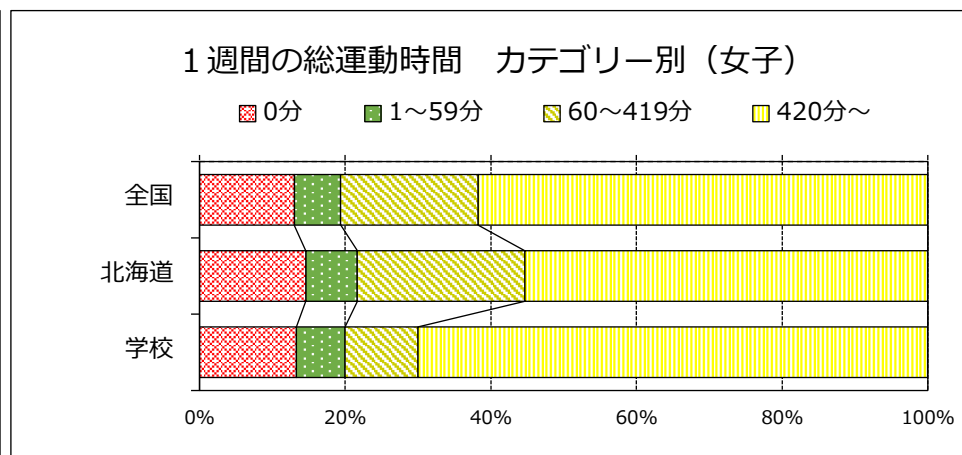
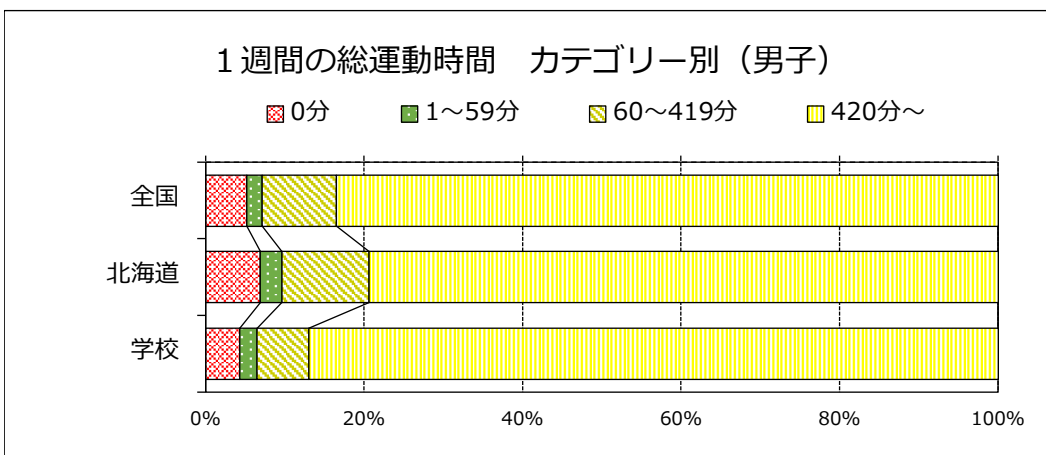
②分析と課題

- ・握力、20mシャトルランは全国平均を2点以上上回っており、立ち幅とびについても近い数値ではあるが全国平均を上回っている。
- ・全国平均を大きく下回っている種目は長座体前屈で、柔軟性に課題がある。

◎男女共通

- ・男女共通して全国平均と全道平均を上回ったのは20mシャトルランのみとなった。
- ・男女共通して北海道平均を下回った種目は上体起こし、長座体前屈、ハンドボール投げとなった。

一週間の総運動量と割合



○男女共に全道と全国の平均を上回る結果となり、昨年度から改善が見られた

現在の取組

- ①体育の授業における補強運動（自重トレーニング）
- ②体育の授業におけるねらいの明確化と振り返り学習。
- ③委員会主催のスポーツ交流会
- ④体育的行事への積極的参加（体育祭、球技大会等）
- ⑤小・中合同体力測定の実施。

今後の対策

- ①体育の授業における補強運動の継続と、柔軟性に特化した取組みの充実。
- ②自ら考え主体的に取り組める授業の実践。
- ③スポーツ交流会の継続と内容の充実。
- ④体育的行事を通じた実践力と主体性の育成。
- ⑤小・中合同体力測定の実施を通して、児童の体力について知るとともに、自身と照らし合わせて考えることができる能力の育成。